



堺化学工業株式会社

2024年3月期

本決算説明会

2024年5月28日

【東京証券取引所・プライム市場 証券コード：4078】

2024年3月期決算サマリー

● 前年同期比（減収減益）

外部要因の影響もあり、厳しい事業環境が続き、多くのサブセグメントで販売数量が減少し、それに伴う操業度の低下による影響もあり、減収減益となった。

外部要因		内部要因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
<ul style="list-style-type: none">・車載関連の荷動きは堅調	<ul style="list-style-type: none">・中国経済の長引く低迷・半導体市場の低迷・国内建材関連の需要低迷・亜鉛相場下落	<ul style="list-style-type: none">・価格是正の実施	<ul style="list-style-type: none">・操業度の低下

● 予想比（売上高は未達／営業利益は達成）

外部要因の影響は大きくは解消されず売上高は未達も、効率化検討事業を中心に価格是正が進んだことや半導体市場が底を打ち、徐々に回復し始めた影響もあり、営業利益は計画を上回った。

外部要因		内部要因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
<ul style="list-style-type: none">・車載関連の荷動きは堅調・半導体市場の底打ち	<ul style="list-style-type: none">・中国経済の長引く低迷・国内建材関連の需要低迷・亜鉛相場下落	<ul style="list-style-type: none">・価格是正の実施・販売構成差の改善	

2024年3月期本決算業績概要（前年同期比、予想比）

	23.3 実		24.3 予		24.3 実		前年同期比		予想比	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	83,861	100.0	84,000	100.0	82,105	100.0	▲1,755	▲2.1	▲1,894	▲2.3
営業利益	4,407	5.3	1,900	2.3	2,942	3.6	▲1,465	▲33.2	1,042	54.9
経常利益	4,854	5.8	1,900	2.3	3,066	3.7	▲1,788	▲36.8	1,166	61.4
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,344	2.8	▲7,000	▲8.3	▲7,092	▲8.6	▲9,436	▲402.5	▲92	1.3
EPS	144円85銭		▲432円10銭		▲437円65銭		—	—	—	—

前年同期比

予想比（予想：24.3期 3Q修正分）

売上高

各サブセグメントでの価格是正の浸透はあったものの、酸化チタンや電子材料を中心に多くのサブセグメントで販売数量が落ち込み▲2.1%の減収となった。

価格是正の浸透はあるものの、各サブセグメントでの販売計画を下回る出荷量となり、また亜鉛建値相場の下落も相まって、▲2.3%の未達となった。

営業利益

成長事業に位置付けている電子材料や化粧品材料での販売が低調に推移した影響が大きく、操業度の低下もあり、▲33.2%の減益となった。

効率化検討事業に位置付けた酸化チタンや樹脂添加剤、成長事業の電子材料での価格是正の浸透、電子材料や樹脂添加剤での販売構成の改善効果の影響で、予想値+54.9%となった。

その他

繰延税金資産の取り崩し(1,932百万円)と、減損損失の計上(6,661百万円)の影響で、7,092百万円の純損失となった。

* カイゲンファーマ社での品質問題に関する売上高への影響は、約200百万円と軽微であった。

2024年3月期に計上した減損損失について

(単位：百万円)

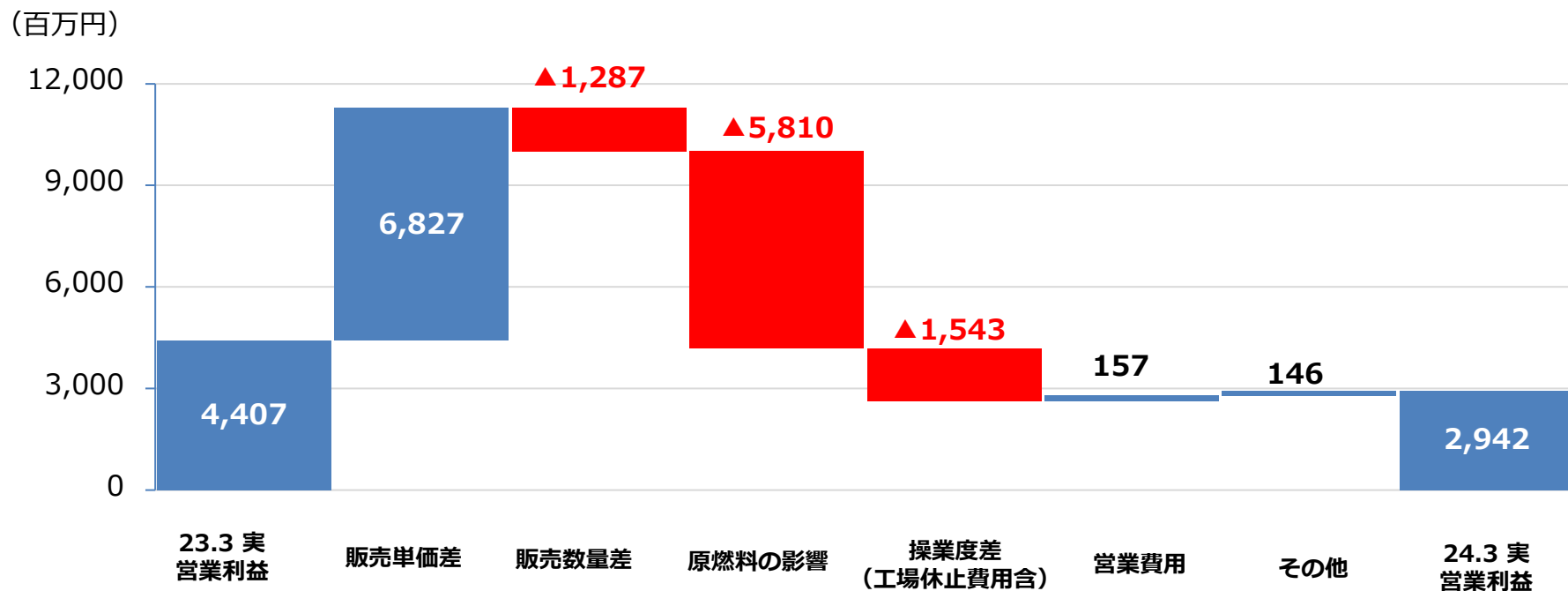
24.3期 減損損失内訳		減損金額	備 考
化学事業	酸化チタン・亜鉛	3,791	酸化チタン設備の回収可能価額をゼロと評価
	樹脂添加剤	432	国内設備の回収可能価額をゼロと評価
	電子材料	55	稼働休止設備の減損
	触媒	57	〃
	その他	1,863	硫酸バリウム製造設備の回収可能価額をゼロと評価
医療事業		464	医療用医薬品製造設備を正味売却価額まで減損
減損損失 合計		6,661	

- ・「減損の兆候が認められるもの」及び一部休止資産につき減損損失を計上
- ・財務諸表に与えた影響
 - B / S 「有形固定資産」及び「繰越利益剰余金」において上記金額分減少
 - P / L 特別損失に「減損損失」として費用計上
 - C / F 影響なし
- ・翌期以降への影響
 - 年間の減価償却費が約600百万円程度減少

セグメント別売上高/営業利益(対前年同期比、対予想比)

		23.3 実		24.3 予		24.3 実		前年同期比		対予想比	
		百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
化学事業	売上高	75,992	—	75,437	—	74,110	—	▲1,882	▲2.5	▲1,327	▲1.8
	営業利益	6,372	8.4	4,268	5.7	5,083	6.9	▲1,288	▲20.2	815	19.1
医療事業	売上高	7,868	—	8,563	—	7,995	—	126	1.6	▲568	▲6.6
	営業利益	272	3.5	120	1.4	86	1.1	▲185	▲68.0	▲34	▲28.3
調整額	本社部門費	▲2,236	—	▲2,488	—	▲2,227	—	8	—	261	—
合計	売上高	83,861	—	84,000	—	82,105	—	▲1,755	▲2.1	▲1,895	▲2.3
	営業利益	4,407	5.3	1,900	2.3	2,942	3.6	▲1,465	▲33.2	1,042	54.8

営業利益増減要因（対前年同期比）



プラス要因

・価格是正努力（販売単価差）

原燃料の高騰は、価格是正努力により概ね相殺できた。

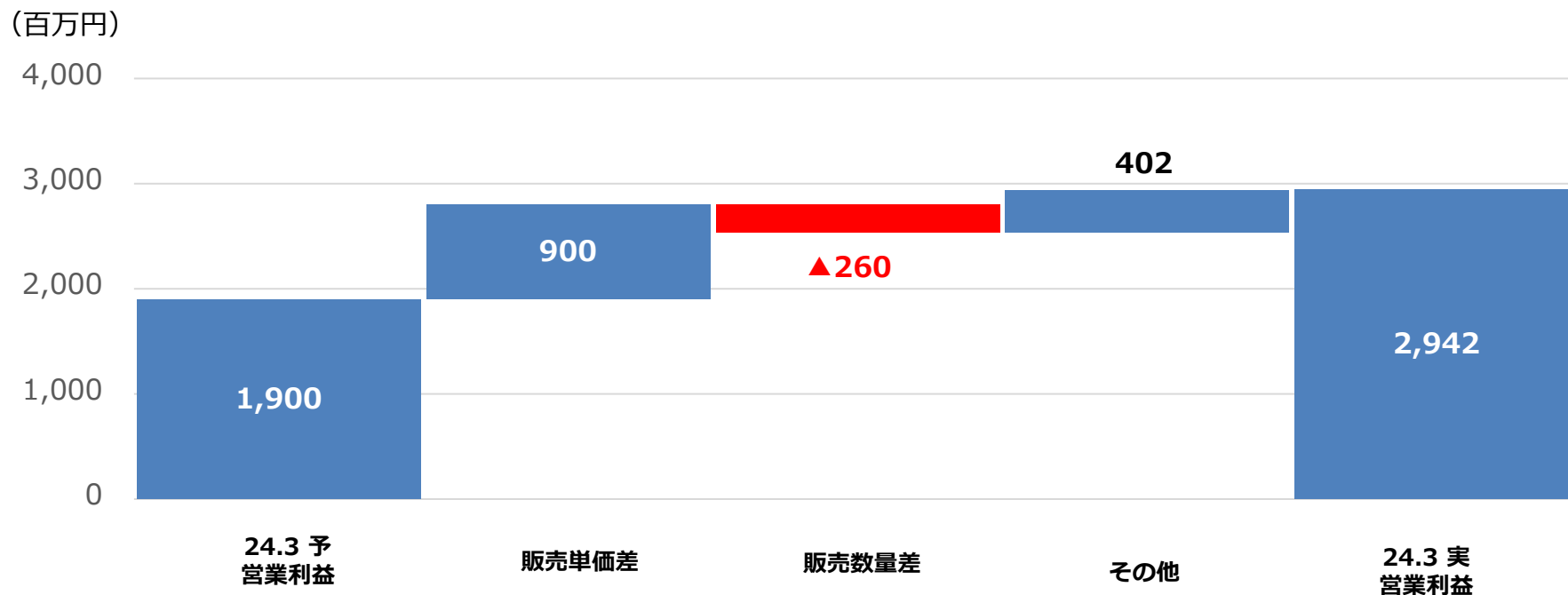
※採算是正や、販売構成の改善も含むため、全てではない。

マイナス要因

・販売数量の減少／操業度の低下

電子材料や酸化チタンなど、多くのサブセグメントで販売数量が減少した分、営業利益を押し下げた。また、棚卸資産圧縮に向けた生産調整を実施したため、固定費原価が上昇し、操業度差が発生した。

営業利益増減要因（対予想比）



プラス要因

・価格是正の浸透、販売構成差の改善（販売単価差）

対予想比では電子材料を中心に価格是正が進み、誘電体材料での販売構成の改善も奏功した。

マイナス要因

・販売数量の減少

電子材料や化粧品材料などで販売数量が伸び悩み、予想を下回った。

貸借対照表比較

(単位：百万円)

比較連結 B/S	2023.3	2024.3	増減
現金及び預金	12,409	16,590	4,181
受取手形及び売掛金	27,555	29,570	2,015
棚卸資産	30,125	28,747	▲1,378
その他	2,010	1,133	▲877
流動資産 合計	72,101	76,042	3,941
有形固定資産	46,761	40,463	▲6,298
その他	9,158	8,938	▲220
固定資産 合計	55,920	49,402	▲6,518
資産 合計	128,021	125,445	▲2,576
支払手形及び買掛金	8,610	9,066	456
短期借入金	13,175	15,108	1,933
その他	7,452	7,582	130
流動負債 合計	29,237	31,757	2,520
長期借入金	8,467	8,930	463
転換社債型新株予約権付社債	-	3,000	3,000
その他	5,598	6,290	692
固定負債 合計	14,066	18,220	4,154
負債 合計	43,304	49,978	6,674
株主資本	78,863	71,183	▲7,680
その他	5,854	4,282	▲1,572
純資産 合計	84,717	75,466	▲9,251
負債・純資産 合計	128,021	125,445	▲2,576

【主な増減の内容】

・売上債権 +2,015百万円 (+7.3%)

①期末直前の売上高水準の上昇(1月～3月)
2023年 20,102 → 2024年 21,350
(+6.2%)

②2024年3月31日は銀行休業日の為、
一部売掛金の入金が翌営業日にずれ込んだ。
(2023年は金曜日)

・棚卸資産 ▲1,378百万円 (▲4.6%)

①在庫量 : 圧縮努力により
対前期末比15%程度減少
②在庫単価 : 原材料は微増、製品は上昇

・有形固定資産 ▲6,298百万円 (▲13.4%)

減損損失 ▲6,592 百万円による影響。

各指標	23.3期末	24.3期末
自己資本比率	62.9%	59.3%
CCC	210日	216日

(*CCC : キャッシュ・コンバージョン・サイクル)



キャッシュフロー計算書比較

(単位：百万円)

比較連結 C/F	2023.3	2024.3	増減
期首 現預金残高	10,549	12,188	1,639
税金等調整前当期純利益又は当期純損失	4,977	▲3,703	▲8,680
減価償却費	4,417	4,354	▲63
売上債権の増減額	2,374	▲1,868	▲4,242
棚卸資産の増減額	▲6,833	1,501	8,334
仕入債務の増減額	▲1,065	385	1,450
減損損失	40	6,661	6,621
法人税等の支払額、還付額	▲2,866	▲620	2,246
その他	▲271	155	426
営業活動によるキャッシュフロー	773	6,866	6,093
有形固定資産の取得による支出	▲2,658	▲4,024	▲1,366
その他	38	61	23
投資活動によるキャッシュフロー	▲2,620	▲3,963	▲1,343
FCF(営業CF+投資CF)	▲1,847	2,903	4,750
短期借入金・長期借入金の増減額	4,653	2,383	▲2,270
新株予約権付社債の発行による収入	-	3,000	3,000
配当金の支払額	▲1,289	▲1,055	234
子会社株式の取得による支出	▲0	▲3,067	▲3,067
その他	▲77	1	78
財務C/F計	3,283	1,259	▲2,024
現預金に係る換算差額計	202	124	▲78
現預金増減計	1,638	4,286	2,648
期末 現預金残高	12,188	16,475	4,287

・営業CF

棚卸資産の圧縮、法人税等の支払額減少(還付等含む)により増加した。

・投資CF

主に、今後注力していく有機化学品の医薬原薬中間体のCDMOへの進出を目的とした有形固定資産取得を実行。

→ **結果、FCFは、4,750百万円増加**した。

・財務CF

無担保転換社債型新株予約権付転換社債発行による資金調達を実施したが、子会社株式の取得(堺商事株式会社株式のTOB)の為の支出により、前期比で▲2,024百万円となった。

2025年3月期業績予想

2025年3月期業績予想

	2024.3		2025.3					
	通期実績		上期予想		下期予想		通期予想	
	(百万円)	売上高比	(百万円)	売上高比	(百万円)	売上高比	(百万円)	前期比
売上高	82,105	—	42,000	—	45,000	—	87,000	6.0%
営業利益	2,942	3.6%	2,400	5.7%	3,000	6.7%	5,400	83.5%
経常利益	3,066	3.7%	2,300	5.4%	2,900	6.4%	5,200	69.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	▲7,092	▲8.6%	1,600	3.8%	2,700	6.0%	4,300	—

売上高 販売数量は、サブセグメント間でのばらつきはあるが、連結ベースでは大きくは変わらないものの、販売単価は、前期からの価格是正を今期も継続し、増収を見込む。

営業利益 前期後半から利益貢献してきた価格是正効果や、成長事業である電子材料事業の数量の回復が期待され、増益を見込む。

外部要因 (想定)

内部要因 (想定)

プラス面

- ・ 車載関連は引き続き堅調に推移
- ・ 半導体市場は徐々に回復へ
- ・ 亜鉛相場の底打ち

マイナス面

- ・ 中国経済の長引く低迷
- ・ 国内建材関連の需要低迷

プラス面

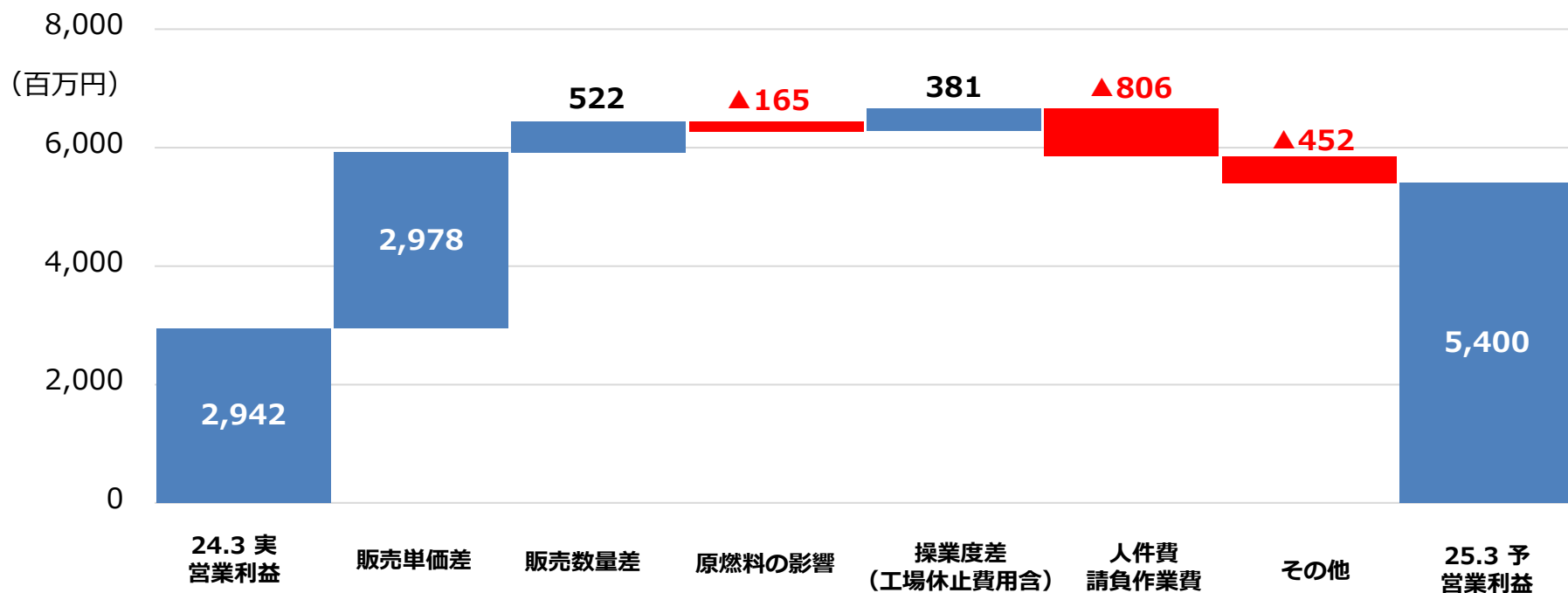
- ・ 価格是正の継続
- ・ 操業度の改善

マイナス面

—



営業利益増減予想（対前年実績比）



プラス要因

・販売価格の是正効果（販売単価差）

積み残している価格是正も進めるが、継続してきた効率化検討事業を中心とする価格の是正効果により、対前期比で利益を押し上げる見通し。

マイナス要因

・人件費の増加分

ベースアップ実施による賃金アップ分。

設備投資・減価償却・研究開発費推移・予想

(予想)

単位：百万円	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3	2025.3
設備投資	8,403	9,567	5,967	2,658	4,024	8,500
減価償却費	3,686	4,243	4,331	4,417	4,354	4,000
研究開発費	2,898	2,487	2,376	2,674	2,722	3,000

・設備投資

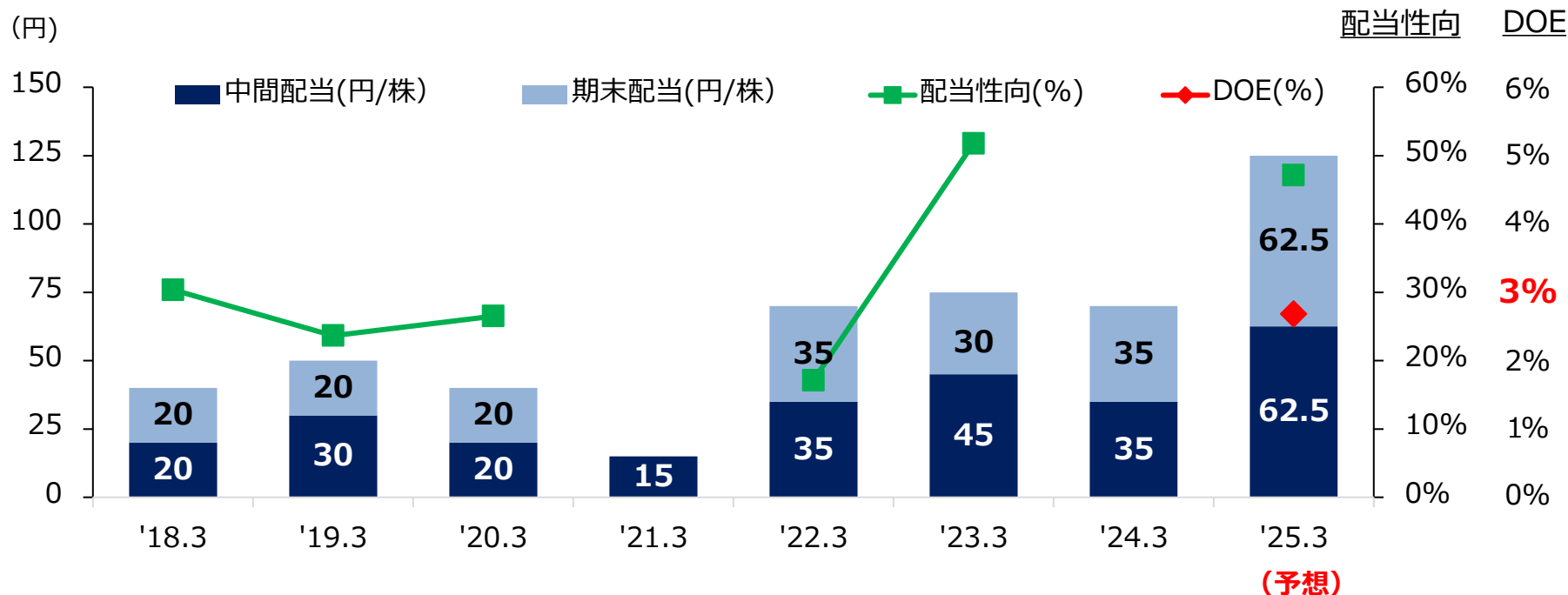
ポートフォリオ変革に伴う事業所再構築費用や、安全対策投資、開発品生産設備の改良を計画しており、2025年3月期は8,500百万円と増加する見通し。

・減価償却

2024年3月期に実施した、減損損失の影響が大きく、4,000百万円へ減少する見通し。

株主還元

株主還元



【2024年3月期について】

1株当たり**年間70円（中間35円、期末35円）**の配当を実施

【2025年3月期～2027年3月期の剰余金の配当の基本方針】

「配当性向30%以上を目安に」を改め、**「DOE 3%を目安に」**利益還元を実施（2回/年）

2024年3月期 セグメント別結果

セグメント・サブセグメントの関係性

セグメント

サブセグメント

サブセグメント

24.3期

事業ポートフォリオ変革に向けた定義

25.3期 → 27.3期

成長事業

電子材料
化粧品材料

中長期の利益成長を牽引する事業として、市場ニーズ取込みを加速

電子材料
化粧品材料

安定事業

衛生材料
有機化学品
25.3期～成長事業へ
受託加工

安定収益を創出する事業として、今後も維持

有機化学品

衛生材料
受託加工

効率化
検討事業

酸化チタン・亜鉛
樹脂添加剤
触媒

事業構造や業績水準を踏まえ、**抜本的な対策を実施し、安定・成長事業へのシフト**を図る

酸化チタン 亜鉛
樹脂添加剤
触媒

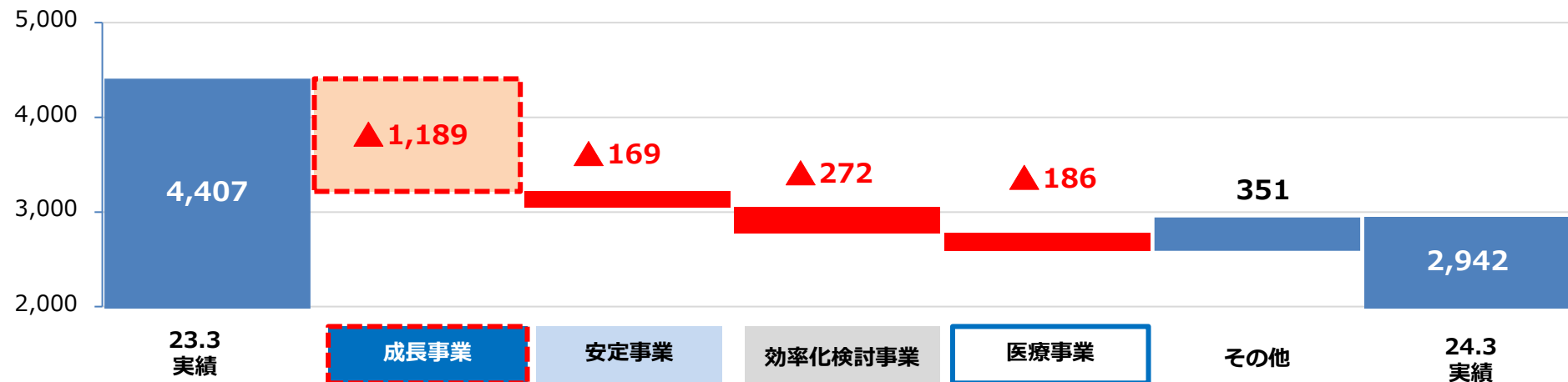
医療事業

薬価改定の影響を受けない製品へのシフト

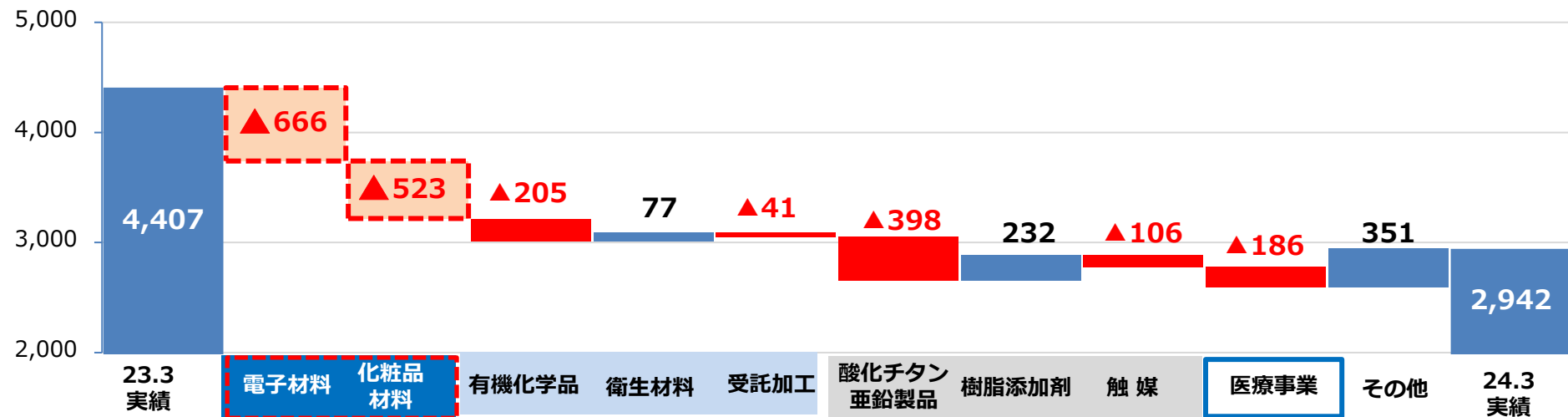
化学事業



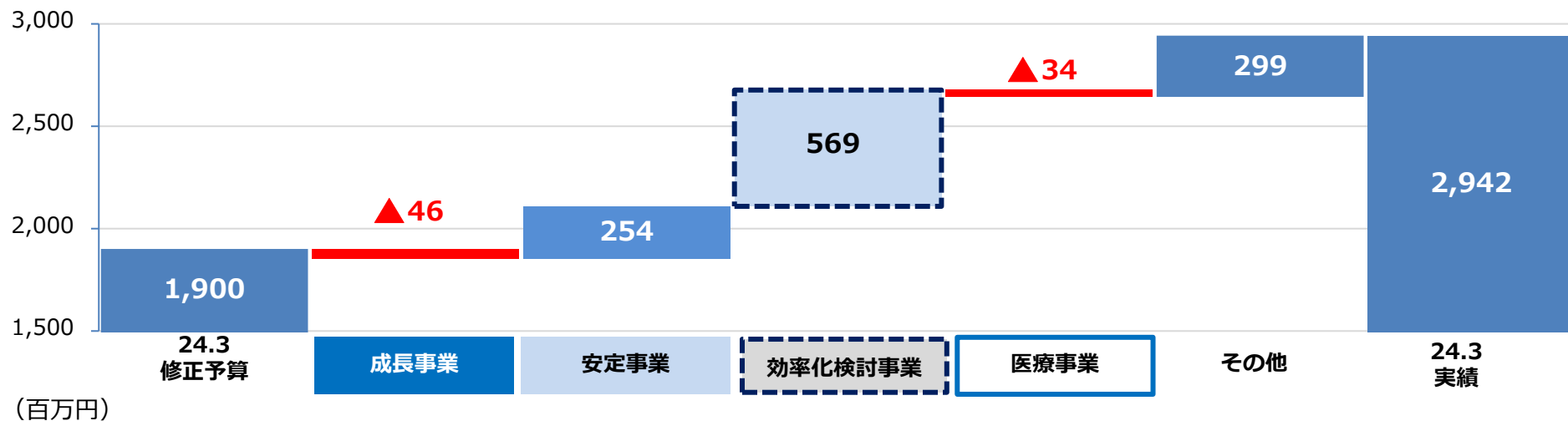
サブセグメント営業利益増減（対前年同期比）



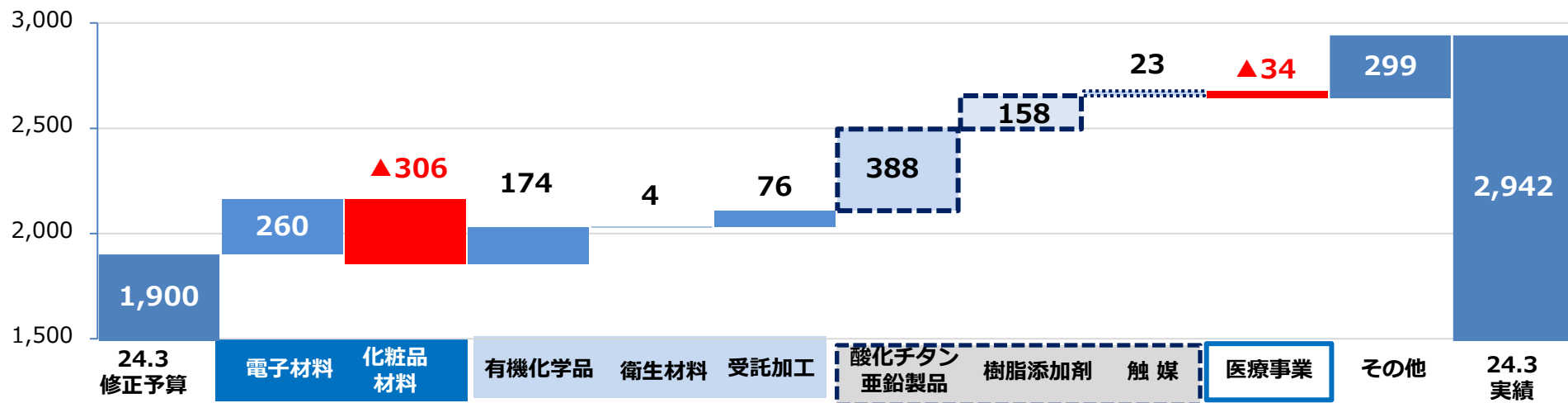
成長事業の、電子材料・化粧品材料で大きく減益となった。



サブセグメント営業利益増減（対予想比）



効率化検討事業の、酸化チタン・亜鉛製品、樹脂添加剤を中心に修正予算を上回った。



電子材料

● 対前年同期比

	23.3 実		24.3 実		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	8,939	—	8,978	—	39	0.4
営業利益	946	10.6	280	3.1	▲666	▲70.4

● 対予想比

* 予想は、2024.3期 2 Q時に見直した修正予想です。

	24.3 予		24.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	9,415	—	8,978	—	▲437	▲4.6
営業利益	20	0.2	280	3.1	260	1,300.0

● 対前年同期比

売上高	(+) 価格是正の浸透 前期下期以降より継続していた民生用機器向け半導体市場の低迷の影響で、誘電体・誘電体材料ともに販売数量は落ち込んだが、誘電体を中心とした一部価格是正が浸透し、売上高は横ばいとなった。
営業利益	(-) 販売数量の減少、販売構成差の悪化 23.3期から続く需要の低迷が24.3期 2 Qまで継続したことで操業度の調整が長引き、昨年度比で販売数量が落ち込み、誘電体材料での販売構成が悪化したこともあり、大きく減益となった。

● 対予想比

売上高	(-) 販売数量の減少 半導体市場に関連が深いMLCC需要は2024年3月期 2 Qで底を打ち、徐々に回復に向かうとみていたが、予想よりも市場の回復は緩やかだったため、販売数量が伸び悩んだ結果、売上は予想を下回った。
営業利益	(+) 価格是正の浸透、販売構成差の改善 誘電体を中心に価格是正が進み、販売計画に比べ、特に誘電体材料での販売構成の改善があった結果、予想を上回った。

化粧品材料

●対前年同期比

	23.3 実		24.3 実		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	2,790	—	2,498	—	▲292	▲10.5
営業利益	430	15.4	▲93	▲3.7	▲523	▲121.6

●対予想比

* 予想は、2024.3期 2 Q時に見直した修正予想です。

	23.3 予		24.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	2,830	—	2,498	—	▲344	▲11.7
営業利益	213	7.5	▲93	▲3.7	▲306	▲143.7

●対前年同期比

売上高	(-) 販売数量の減少 国内需要は堅調に回復してきているものの、中国をはじめとした海外での日焼け止め剤消費の低迷の影響を受け、販売量が減少した。また、品質改善工事の実施など一時的な要因により計画通りの生産ができなかったことも影響した。
	営業利益

●対予想比

売上高	(-) 販売数量の減少 中国をはじめとする海外での需要の低迷により、想定以上に販売数量が伸びず、また、計画通りの生産ができなかったことが影響し、予想未達となった。
	営業利益

有機化学品

●対前年同期比

	23.3 実		24.3 実		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	8,014	—	7,813	—	▲201	▲2.5
営業利益	1,600	20.0	1,395	17.9	▲205	▲12.8

●対予想比

* 予想は、2024.3期 2 Q時に見直した修正予想です。

	24.3 予		24.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	8,080	—	7,813	—	▲267	▲3.3
営業利益	1,221	15.1	1,395	17.9	174	14.3

●対前年同期比

売上高	(-) 医薬品原薬中間体の出荷減 プラスチックレンズモノマー向け添加剤（メガネレンズ材料）は、堅調なメガネレンズ需要によって順調に出荷量を伸ばしたが、医薬品原薬中間体は出荷量が減少したため、減収となった。
営業利益	(-) 出荷量減、原燃料高の影響 プラスチックレンズモノマー向け添加剤では原燃料高の影響を避けられず減益となり、医薬品原薬中間体では出荷数量の減少に伴い、減益となった。

●対予想比

売上高	(-) 販売数量の減少 プラスチックレンズモノマー向け添加剤以外のチオ製品の販売量が計画を下回ったため、予想未達となった。
営業利益	(+) 出荷量増 プラスチックレンズモノマー向け添加剤がメガネレンズ需要が好調に推移した結果、計画値よりも販売数量が伸びたため、予想を上回った。

衛生材料

●対前年同期比

	23.3 実		24.3 実		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	5,496	—	5,455	—	▲41	▲0.7
営業利益	327	5.9	404	7.4	77	23.5

●対予想比

* 予想は、2024.3期 2 Q時に見直した修正予想です。

	24.3 予		24.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	5,923	—	5,455	—	▲468	▲8.0
営業利益	400	6.7	404	7.4	4	1.0

●対前年同期比

売上高	(-)輸入商材の販売量が減少 円安によって、衛生材関連の輸入商材の荷動きが悪くなったが、前年同期並みの売上高となった。
営業利益	(+)製造収率の改善、物流コストの削減が寄与 前期に比べ、収率改善による製造コストの減少、輸出運賃の下落により営業費が減少したことで、増益となった。

●対予想比

売上高	(-)輸入商材や生產品の荷動きの低下 円安により輸入商材の荷動きが計画よりも悪くなり、またインドネシアでの物価高騰によるオムツ市況低迷により、計画よりも生產品の販売が伸び悩んだため予想を下回った。
営業利益	(+)製造収率の改善や物流コストの削減 販売が低下したことで、操業度を落としたが、収率改善効果や輸出運賃の下落等で営業費が減少し、予想値とほぼ同等の結果となった。

受託加工

●対前年同期比

	23.3 実		24.3 実		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	6,244	—	6,177	—	▲67	▲1.1
営業利益	587	9.4	546	8.8	▲41	▲7.0

●対予想比

* 予想は、2024.3期2Q時に見直した修正予想です。

	24.3 予		24.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	6,961	—	6,177	—	▲784	▲11.3
営業利益	470	6.7	546	8.8	76	16.2

●対前年同期比

売上高	(-) 販売数量の減少 工程受託では、大型案件の受託終了で減収となり、加工顔料では、建材関連や浴用剤関連での販売数量の減少があったもの、価格是正の浸透もあり、売上高は概ね維持した。
営業利益	(-) 販売数量の減少 工程受託、加工顔料ともに販売数量の減少で、減益となった。

●対予算比

売上高	(-) 販売数量の減少 加工顔料での建材向けやOA機器向け顔料での販売が振るわず、予想を下回った。
営業利益	(+) 新規案件の獲得、価格是正の浸透 工程加工では受託終了した大型物件の代わりに、想定以上に新規案件を受託できたこと、また加工顔料での価格是正の浸透もあり、予想を上回った。

酸化チタン・亜鉛製品（化粧品材料を除く）

●対前年同期比

	23.3 実		24.3 実		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	15,068	—	14,269	—	▲799	▲5.3
営業利益	▲34	▲0.2	▲432	▲3.0	▲398	—

●対予想比

* 予想は、2024.3期 2 Q時に見直した修正予想です。

	24.3 予		24.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	14,949	—	14,269	—	▲680	▲4.5
営業利益	▲820	▲5.5	▲432	▲3.0	388	—

●対前年同期比

売上高	(-) 国内亜鉛建値相場の下落(前期比：約700百万円) 国内亜鉛建値相場の下落で、亜鉛製品の売上が大きく減少した。なお、酸化チタンの売上に関しては、中国品の安価攻勢による販売数量の減少を価格是正でカバーしたが、減収となった。
営業利益	(-) 酸化チタンの販売数量減少、原燃料高の影響 価格是正を推し進めてはいるが、原燃料高の影響が残っていること、また中国勢の安価攻勢を受けるも、価格是正を優先した結果、販売数量が減少し、それに伴う在庫調整で操業度が低下した影響もあり、減益となった。 (亜鉛製品は加工賃ビジネスのため、利益への影響は限定的)

●対予想比

売上高	(-) 酸化チタンの販売数量減少 酸化チタンにおいて、価格是正を進めるなかで、中国の安価品攻勢の影響が大きく、想定以上に販売数量が減少したため、予想を下回った。
営業利益	(+) 酸化チタン・亜鉛製品の価格是正の浸透 継続的な価格是正の浸透があり、また2024年3月期 3 Q決算時に実行した減損損失処理もあって、予想よりも赤字幅は縮小した。

樹脂添加剤

●対前年同期比

	23.3 実		24.3 実		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	13,354	-	13,418	-	64	0.5
営業利益	404	3.0	636	4.7	232	57.4

●対予想比

* 予想は、2024.3期 2 Q時に見直した修正予想です。

	24.3 予		24.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	15,772	-	13,418	-	▲2,354	▲14.9
営業利益	478	3.0	636	4.7	158	33.1

●対前年同期比

売上高	(+) 価格是正の浸透、海外現地での拡販 国内は住宅着工件数の減少などの影響で販売が減少し、海外では中国向け製品の販売数量が減少したが、国内外ともに価格是正が浸透してきており、また海外現地での非鉛系安定剤の拡販などにより、売上は対前期比でほぼ同等となった。
	営業利益
営業利益	(+) 価格是正の浸透、海外現地での拡販 国内での価格是正の浸透に加え、海外現地での非鉛系安定剤の拡販により販売構成が改善し、増益となった。

●対予想比

売上高	(-) 販売数量の減少 国内での建材関連や継ぎ手などのPVC需要が低迷し、海外では中国経済の長引く停滞の影響により、ともに販売数量が計画よりも伸びず、予想を下回った。
	営業利益
営業利益	(+) 価格是正の浸透、非鉛系安定剤の増加 国内外とも価格是正の浸透や、ベトナム・タイでの海外現地での非鉛系安定剤の拡販により、予想を上回った。

触媒

● 対前年同期比

	23.3 実		24.3 実		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	4,193	—	3,527	—	▲666	▲15.9
営業利益	179	4.3	73	2.1	▲106	▲59.2

● 対予想比

* 予想は、2024.3期 2 Q時に見直した修正予想です。

	24.3 予		24.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	3,707	—	3,527	—	▲180	▲4.9
営業利益	50	1.3	73	2.1	23	46.0

● 対前年同期比

売上高	(-) 販売数量の減少 ニッケル触媒は、国内需要家の定期修理の影響が大きく、脱硝触媒は前期業績に寄与した海外大型物件が一段落し、販売数量が落ち込んだ。
営業利益	(-) 販売数量の減少 価格是正の浸透はあったものの、販売数量の減少をカバーできず、減益となった。

● 対予想比

売上高	(-) 販売数量の減少 ニッケル触媒は想定よりも顧客の新工場の立ち上がりの遅れで販売数量が伸びず、脱硝触媒では、採算性を重視した販売方針の下、過度な価格競争は避けた結果、販売数量が計画を下回ったので、予想未達となった。
営業利益	(+) 価格是正の浸透 ニッケル触媒を中心に、価格是正が浸透し、営業利益は予想を上回った。

●対前年同期比

	23.3 実		24.3 実		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	7,868	—	7,995	—	127	1.6
営業利益	272	3.5	86	1.1	▲186	▲68.4
売上高 (新規事業)	1,303	—	1,615	—	312	23.9

*新規事業とは、薬価改定の影響を受けない事業のことです。

●対予想比

*予想は、2024.3期2Q時に見直した修正予想です。

	24.3 予		24.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	8,563	—	7,995	—	▲568	▲6.6
営業利益	120	1.4	86	1.1	▲34	▲28.3
売上高 (新規事業)	2,069	—	1,615	—	▲454	▲21.9

●対前年同期比

売上高	(+)医療機器、OTC医薬品、新規事業 薬価の改定の影響で、バリウム造影剤事業やアルロイドGの売上高は減少したものの、リニューアルした医療機器や、コロナ対策緩和の影響で風邪の罹患者が増加し、OTC医薬品の販売も伸び、新規事業の売上高が増加したため、やや増収となった。
	営業利益

●対予想比

売上高	(-)バリウム造影剤、アルロイドG、新規事業 既存バリウム造影剤事業やアルロイドGの売上本数の減少を新規事業でカバーする予定であったが、一部上市が遅れるなどし、予想を下回った。
	営業利益

事業環境の認識

	サブセグメント	25.3期 予想の前提
成長事業	電子材料	半導体市場は前期後半から回復基調にあり、今期も期初から同様に推移する。
	化粧品材料	国内需要：引き続き堅調に回復していく。 海外需要：徐々に回復に転じていく。
	有機化学品	メガネレンズ市場は、堅調に推移していく。
効率化検討事業	酸化チタン／亜鉛製品	酸化チタンは供給過多の状況が続き、安価海外品が引き続き国内に流入する厳しい販売状況が継続する。
	樹脂添加剤	国内需要：PVC市況も下降傾向で、販売の増加は厳しい見込み。 海外需要：PVC市況の拡大とともに、鉛系から非鉛系安定剤への切り替えが進んでいく。

サブセグメント別予想

	24.3 期 実績			25.3 期 通期予想			差			
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	百万円	%	百万円	%
電子材料	8,978	280	3.1	10,913	1,023	9.4	1,935	21.6	743	265.4
化粧品材料	2,498	▲ 93	▲3.7	3,016	63	2.1	518	20.7	156	▲167.7
有機化学品	7,813	1,395	17.9	7,377	1,132	15.3	▲ 436	-5.6	▲ 263	▲18.9
衛生材料	5,455	404	7.4	5,966	465	7.8	511	9.4	61	15.1
受託加工	6,177	546	8.8	6,303	511	8.1	126	2.0	▲ 35	▲6.4
酸化チタン 亜鉛製品	14,269	▲ 423	▲3.0	13,845	763	5.5	▲ 424	▲3.0	1,186	▲280.4
樹脂添加剤	13,418	636	4.7	14,308	1,014	7.1	890	6.6	378	59.4
触媒	3,527	73	2.1	3,544	▲ 191	▲5.4	17	0.5	▲ 264	▲361.6
医薬事業	7,995	86	1.1	8,175	100	1.2	180	2.3	14	16.3
その他	11,975	38	0.3	13,553	520	3.8	1,578	13.2	482	1268.4
連結	82,105	2,942	3.6	87,000	5,400	6.2	4,895	6.0	2,458	83.5

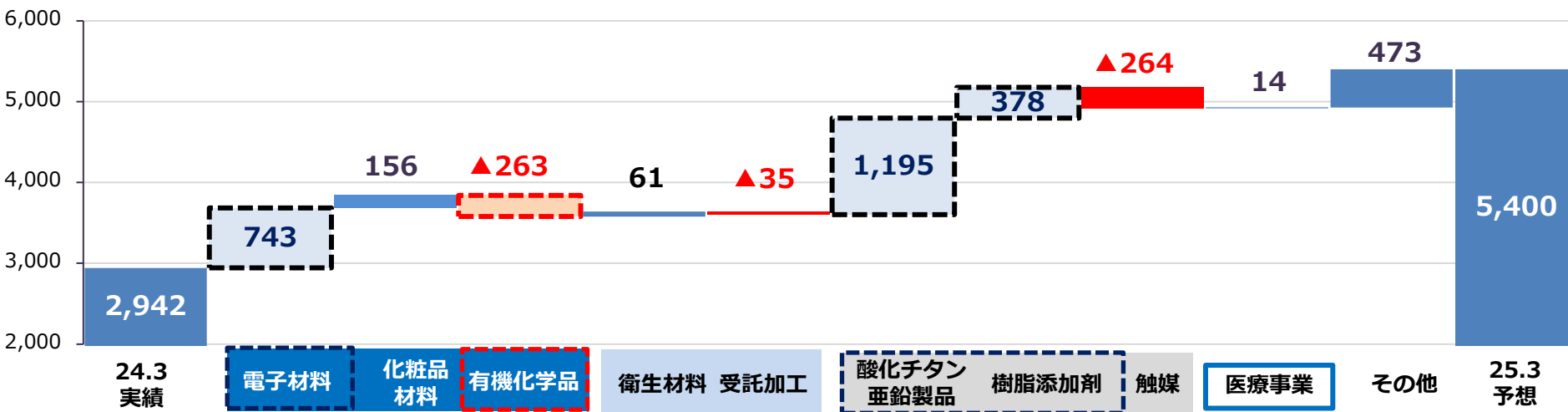
サブセグメント営業利益増減予想（対前年同期比）



(百万円)

成長事業である電子材料、効率化検討事業である酸化チタン・樹脂添加剤での増益を見込む。

成長事業である有機化学品は、医薬品原薬中間体への設備投資に伴う減価償却費負担増の影響で減益を見込む。



質疑応答

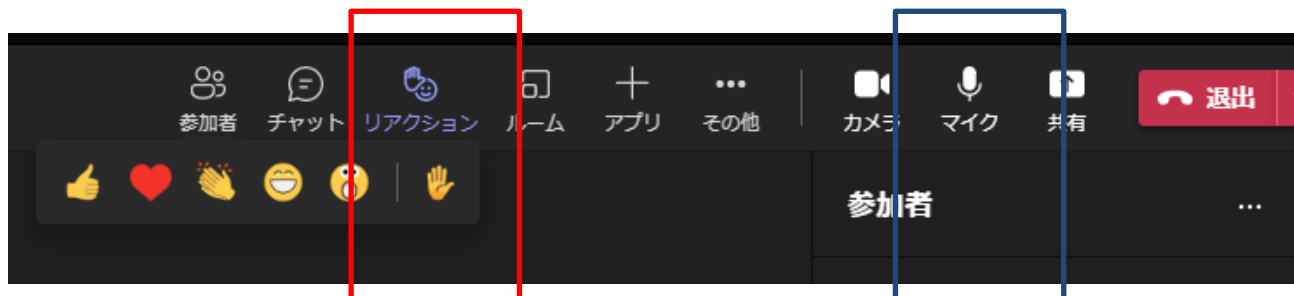
■ 質疑応答の順番

① 会場にお越しの皆様 → ② WEBでご参加の皆様

* 恐れ入りますが、WEBでご参加の皆様は、①での質疑終了までお待ち願います。

* 会場の時間の関係上、WEBからのご質問をお受けできない可能性がありますこと、予めご了承ください。

■ WEBからの質疑方法



- ご質問のある方は画面上の「**リアクション**」から挙手をお願いします。
- 同時に複数の方が手を挙げられた場合には、順番にご案内します（手を挙げるボタンは押したままにしてください）。
- 事務局よりお名前をお呼びしますので、**マイクミュートを解除の上**ご発言を開始してください。（*当社HPに公開する書き起しでは、お名前を伏せさせていただきます。）
- 質疑応答が終わりましたら同じ「**リアクション**」機能から手をおろし、また**マイク**をオフにしてください。

参 考 資 料

- 当社概要
- 事業紹介
- 業績推移等



本 社	堺市堺区戎島町5丁2番地
代 表 者	代表取締役社長 矢倉 敏行
創 業	1918年6月
事業内容	無機化学工業製品、有機化学品、医薬品の 開発・製造・販売
総 資 産	125,445百万円（2024年3月末現在）
純 資 産	75,466百万円（2024年3月末現在）
関係会社	連結子会社15社（国内7社、海外8社）
従業員数	連結2,007名／単体753名（2024年3月末現在）

当社グループについて

化 学【製造・販売】

堺化学工業(株)

大崎工業(株)

レジノカラー工業(株)

共同薬品(株)

日本カラー工業(株)

(株)片山製薬所

SAKAI CHEMICAL(VIETNAM) CO., LTD.

SIAM STABILIZERS AND CHEMICALS CO., LTD.

PT. S&S HYGIENE SOLUTION

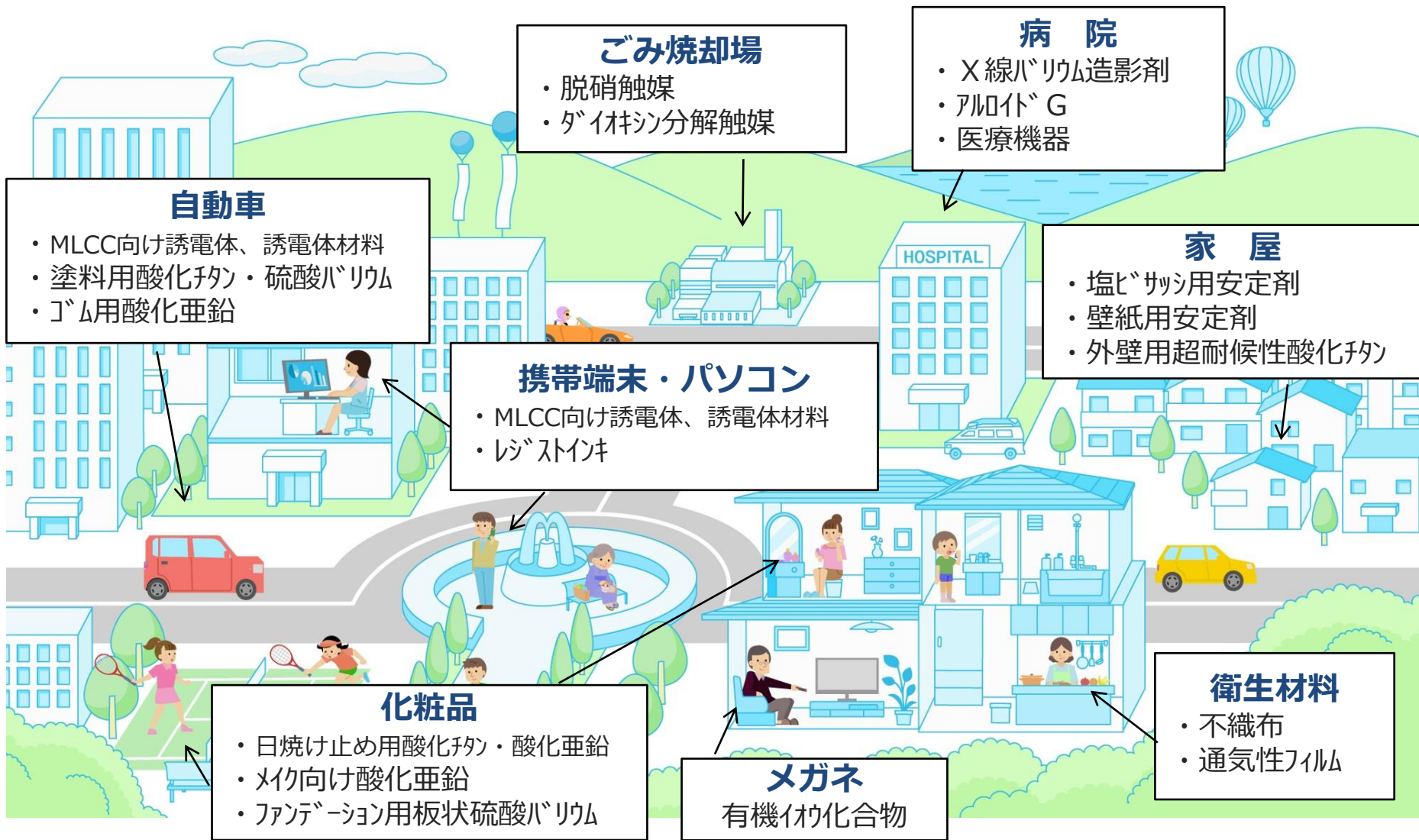
化 学【販 売】

堺商事(株)

医 療【製造・販売】

カイゲンファーマ(株)

暮らしに息づく当社グループ製品



事業内容と売上高構成

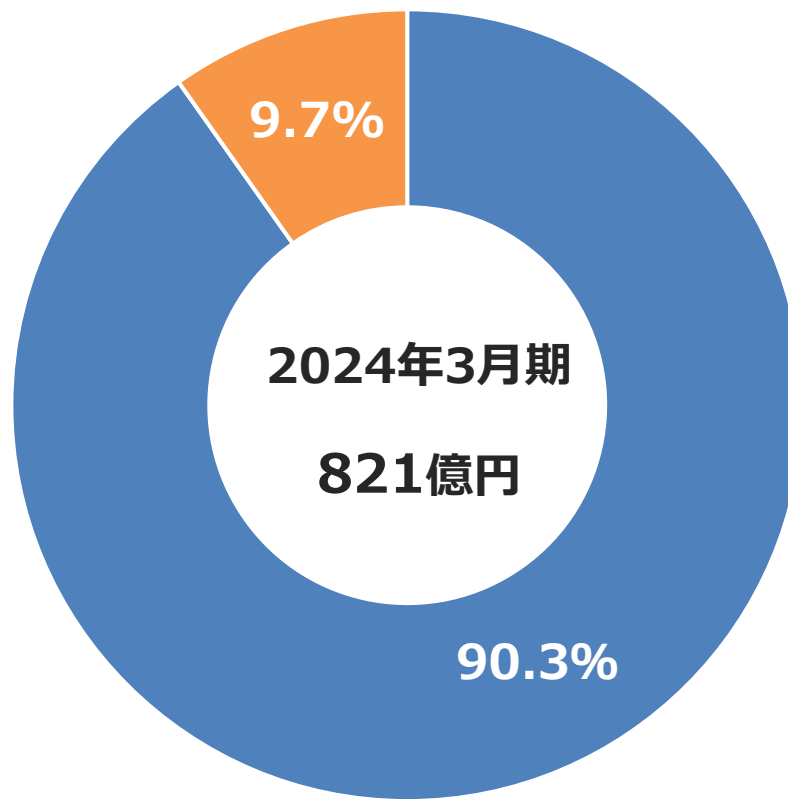
医療

バリウム製剤、アルギン酸ナトリウム製剤、医療機器、改源ブランドを柱として、医療用から一般向けまで幅広く医療と健康に貢献する製品・サービスを提供しています。



化学

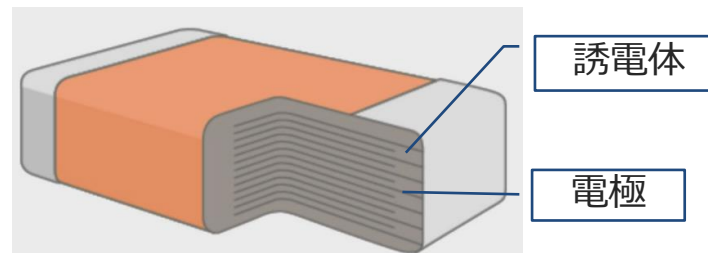
天然鉱石から加工する技術や粉体をコントロールする技術などにより、さまざまな分野に素材を展開している主力事業です。



電子材料

積層セラミックコンデンサ

- ・誘電体 (チタン酸バリウム)
- ・誘電体材料 (高純度炭酸バリウム)



電子機器には欠かせない積層セラミックコンデンサのメイン材料。

誘電体は電気をたくさん貯める性質を持ちます。

当社は、微細で形が均一に揃った球状の誘電体を開発し、コンデンサの性能向上に貢献していきます。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

酸化チタン・亜鉛製品

- ・酸化チタン…着色力、隠ぺい力、耐候性、化学的安定性に優れる白色顔料
- ・酸化亜鉛…ゴム製品の加硫促進助剤
- ・化粧品材料…高い紫外線遮蔽や滑らかな肌触りを実現

酸化チタンは、塗料やインキ、製紙、プラスチック、化学繊維などあらゆる分野に必要とされる素材です。

酸化チタン、酸化亜鉛ともに微細にすると紫外線遮蔽率が高まるため、日焼け止めやファンデーションにも活躍しています。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

樹脂添加剤

パイプ、継手、窓枠、壁紙、ワイヤーハーネス

- ・ 塩ビ安定剤・非塩ビ安定剤
- ・ ハイドロタルサイト ... 非鉛系塩ビ安定剤や
高い保温性と透明性から農業用フィルムに



塩ビ安定剤は、樹脂の加工性向上や劣化抑制などのために添加されます。現在、世界的に塩ビ安定剤の脱鉛化が進んでおり、非鉛系への切替えが加速しています。

ベトナム子会社では非鉛系安定剤およびその原料となるハイドロタルサイトを製造、タイ子会社では鉛系・非鉛系安定剤を製造し、いずれも東南アジアを中心に販売を拡大しています。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

衛生材料

おむつ、生理用品

- ・ 通気性フィルム … 水分を留めて空気だけを通す

海外で需要が増加している中、インドネシア子会社では通気性フィルムを製造しています。

こんなところに
使われています



有機化学品

プラスチックレンズ、コンクリート、潤滑油、医薬品

- ・ 有機イオウ化合物 … メガネレンズの屈折率向上、
コンクリート混和剤としても
- ・ 有機リン化合物 … 潤滑油添加剤に
- ・ 医薬品原薬・中間体

こんなところに
使われています

有機イオウ化合物BMPAを国内で唯一製造しています。



事業の紹介 <化学>

触 媒

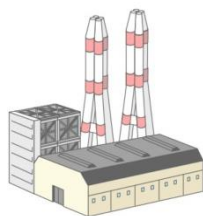
ごみ焼却場、火力発電所、マーガリン、接着剤、光学フィルム

- ・脱硝触媒 … 窒素酸化物を除去
- ・プロセス触媒(ニッケル触媒) … 油脂・樹脂の水素化など

ニッケル触媒は使用先の光学フィルムや紙おむつ接着剤の需要増加に伴い、事業を拡大を目指しています。



こんなところに
使われています



受託加工事業

無機・有機化学工業製品の受託製造

…顔料、着色剤、機能性インキ、触媒、樹脂添加剤など

さまざまな機械を取り揃え、幅広い分野に対応しています。



事業の紹介 <医療>



カイゲンファーマ(株)

X線バリウム造影剤

…消化管撮影

1931年に原料となる薬用硫酸バリウムの製造を開始。

定期検診でお馴染みのものですが、海外への輸出も行っています。



医療機器

・内視鏡用洗浄消毒器

バリウムから胃カメラ検診への移行に対応。

薬価改定の影響を受けない事業と位置付け、開発に注力しています。



アルロイドG

…消化性潰瘍・逆流性食道炎治療薬

胃・十二指腸潰瘍の止血や粘膜保護、逆流性食道炎における自覚症状を改善。



一般用医薬品

- ・「改源」シリーズ
- ・カイゲン顆粒
- ・カイゲンパックIB顆粒



「メイドインジャパン」品質で台湾市場への販売を開始。

化学事業の製品別売上高・営業利益推移

金額単位：百万円

		2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3
電子材料	売上高	8,948	8,499	9,723	10,857	8,939	8,978
	営業利益	651	117	23	1,700	946	280
化粧品材料	売上高	2,121	2,534	1,698	2,460	2,790	2,498
	営業利益	429	735	292	301	430	▲ 93
酸化チタン・亜鉛製品	売上高	14,220	12,771	11,866	13,257	15,067	14,269
	営業利益	▲ 125	▲ 125	227	744	▲ 34	▲ 432
樹脂添加剤	売上高	12,745	12,583	11,543	12,489	13,354	13,418
	営業利益	248	169	397	966	404	636
衛生材料	売上高	8,006	8,070	9,254	5,388	5,496	5,455
	営業利益	246	174	440	331	327	404
有機化学品	売上高	5,919	6,172	6,882	7,321	8,014	7,813
	営業利益	828	1,271	1,476	1,639	1,600	1,395
触 媒	売上高	4,257	3,703	3,210	3,644	4,193	3,527
	営業利益	289	26	▲ 82	190	179	73
受託加工	売上高	7,000	6,811	6,550	6,947	6,244	6,177
	営業利益	1,031	698	632	1,029	587	546
その他	売上高	18,040	17,412	16,079	9,875	11,890	11,970
	営業利益	432	356	447	170	▲ 305	46
合 計	売上高	81,256	78,555	76,821	72,243	75,992	74,110
	営業利益	4,029	3,421	3,851	7,076	4,135	2,855

注：営業利益から本社部門費を差し引いた値です。

化学事業の四半期推移

金額単位：百万円

	2022.3				2023.3				2024.3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	17,695	18,113	17,544	18,890	19,455	19,116	18,918	18,502	19,091	17,221	18,088	19,708
電子材料	2,660	2,426	3,144	2,627	2,685	2,271	1,984	1,998	2,144	1,953	2,267	2,613
化粧品材料	552	464	595	847	714	634	632	809	630	563	613	690
酸化チタン・亜鉛製品	3,376	3,098	3,324	3,459	3,841	3,755	3,912	3,557	3,680	3,401	3,807	3,378
樹脂添加剤	3,090	3,118	3,148	3,132	3,281	3,430	3,291	3,350	3,382	3,561	3,469	3,004
衛生材料	1,283	1,223	1,503	1,379	1,225	1,426	1,458	1,385	1,399	1,364	1,334	1,358
有機化学品	2,250	2,171	1,089	1,810	2,172	2,211	1,496	2,133	2,465	1,262	1,255	2,829
触媒	661	824	961	1,197	910	1,151	981	1,150	662	1,026	735	1,102
受託加工	1,849	1,739	1,618	1,740	1,704	1,487	1,585	1,467	1,543	1,465	1,626	1,541
その他	1,974	3,046	2,160	2,698	2,919	2,747	3,574	2,649	3,181	2,622	2,978	3,188
営業利益	2,111	2,012	1,452	1,501	1,736	1,289	762	347	871	▲ 99	672	1,411

注：営業利益は本社部門費を差し引いた値です。

カイゲンファーマの製品別売上高推移

金額単位：百万円

	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3
バリウム	2,265	2,291	2,043	1,924	1,882	1,775
アルロイドG	990	1,221	1,193	1,167	1,061	959
医療機器	2,373	2,445	2,453	2,611	2,635	2,792
一般用医薬品	1,190	1,144	1,026	812	853	927
その他	1,608	1,722	1,557	1,377	1,435	1,542
合 計	8,426	8,823	8,272	7,892	7,868	8,240

ご清聴ありがとうございました。

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。

また、化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。